

令和7年度全国学力・学習状況調査から

6年生を対象に令和7年4月17日（木）に実施された、今年度の全国学力・学習状況調査の結果分析を報告します。この調査は、昨年度までの浜之郷小学校の取り組みを把握するためのものです。

毎年行われているこの調査は、全国規模で国語と算数、今年度はそれに加えて理科、そして学校の取組のようすや家庭での過ごし方を客観的に把握するものですが、あくまでも、対象となるその年度の6年生が5年生までで身に付けた力や実施前年度の学校や家庭の教育活動の一側面であることから、結果がそのままその学校の全てというわけではありません。しかし、それでも結果から見てくる成果や課題もあると思っています。

国立教育政策研究所ホームページの「令和7年度 全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料」から、全国の結果と傾向を知ることができます。興味がある方はそちらをご参照ください。

【国立教育政策研究所 教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」】

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

今後も、子どもの姿をもとに、浜之郷小学校の取り組みを丁寧に振り返りながら、「安心して学びに向かえる学校」をめざしてまいります。それぞれのご家庭でも、以下の内容を子育てに生かして、ともに子どもを育ててまいりましょう。今後とも、ご理解とご協力をお願いいたします。

令和7年4月17日(木) 実施

令和7年度全国学力・学習状況調査分析

1 概要

昨年度までは今年度より中領域がなくなり、学校質問紙及び児童質問紙の回答を全18の小領域でまとめ、それをチャートとして公開しています。①国語の学力②算数の学力③理科の学力④主体的・対話的で深い学び⑤ICTを活用した学習状況⑥国語に関する意識⑦国語の学習活動⑧算数に関する意識⑨算数の学習活動⑩理科に関する意識⑪理科の学習活動⑫総合・学級活動・道徳⑬生活習慣⑭学習習慣⑮読書等⑯自己有用感等⑰向社会性⑱主体的な学習の調整の18です。全国・神奈川県どちらを基準として比較しても、質問紙の回答項目の分布は概ね同じような傾向がみられます。

2 学力・学習状況調査結果チャート分析から

特徴的なもの(概ね10Pt.以上県と比較して上下しているもの)5点に絞ってお伝えします。

【成果】

・「⑮読書等」では、設問21「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」において、平日の読書時間は、1時間以上読んでいるとの回答が16.2Pt.、10分以下が-10Pt.となり、読書の時間が長い傾向にあります。また、設問24「読書は好きですか」においても、好き・まあまあ好きと答えた児童が+8.9Pt.、嫌い、まあまあ嫌いが-8.9Pt.と回答し、読書が好きな子どもが多い傾向にあることがわかりました。

・「④主体的・対話的で深い学び」の領域中の設問33「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の回答では、当てはまる・どちらかといえば当てはまるの肯定的回答が9.1Pt.のプラス、どちらかといえば当てはまらない・あてはまらないが9.1Pt.少ないと回答し、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っているという意識が高いことがうかがわれます。

【課題】

・「⑭学習習慣」の領域中の設問17「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」の回答では、「2時間以上学習する児童が4.8Pt.多いのと同時に、学習時間が30分以下の児童が10Pt.多いことから、家庭における学習時間の二極化が進んでいると考えられます。

・「⑰向社会性」の領域中の設問26「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事は除く)」の回答では、「よくある・ときどきある」を合わせた肯定的評価は、18.2Pt.低く、「あまりない・まったくない」の否定的評価が14.0Pt.多いなど、地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりする経験が少ないことがうか

がわれます。

・「⑫総合・学級活動・道徳」の領域中の設問41「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の回答では、当てはまる・どちらかといえば当てはまるの肯定的回答が18.2Pt.のマイナス、どちらかといえば当てはまらない・あてはまらないが17.0Pt.多く回答し、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めるという経験が不足していることがうかがわれます。

3. 国語 ～問題別調査結果より～

・正答率は、全体的に低い傾向があります。

【成果】

・「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる(設問1三(2))」や「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる(設問3二(1))」は概ね全国・県との差はありませんでした。

【課題】

・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる(設問2四ア・イ)」
「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる(設問1一)」と
「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる(設問2一)」が全国・県と比較して正答率が低かったです。

4. 算数 ～問題別調査結果より～

・正答率は、全体的に低い傾向があります。

【成果】

・「目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる(設問1(2))」、「角の大きさについて理解しているかどうかをみる(設問2(3))」は全国・県と大きな差はありませんでした。

【課題】

「基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる(設問2(4))」と「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる(設問4(2))」が全国・県と比較して正答率が低かったです。

5. 理科 ～問題別調査結果より～

・正答率は、全国・県と大きな開きはありませんでした。

6. まとめ

改めて「自分の考えを言葉にして表す」大切さを考えさせられる結果となりました。これらの分析をもとに次年度の教育課程の編成に努めてまいります。